

地域に眠る資産を用いた 新規認知症ケアの実証実験



実験概要

本実験は、認知症の患者及び家族の介護ケアの軽減を目的に、被験者の過去の写真や動画等を活用して、脳を刺激し、認知機能の向上を図ることを目的としています。

実験内容

1家族を対象に1週間程度で実証実験を行いました。被験者の生活史に基づいて作成した映像や写真などを見せ、その前後でアンケートを取り、変化を確認しました。

今回は特に、被験者がコーラスグループに所属していたことから、コーラスグループの練習風景を撮影し映像作成しました。

実施スケジュール

2019年 9月：全体実施計画、支援内容について議論

10月~11月上旬：被験者集めと決定

~12月：被験者の方の生活史ヒアリングと開発準備

~1月中旬：ソフトウェア開発のための素材集め（コーラス映像の撮影、写真収集等）

2020年 1月下旬：実証実験

実験結果

対象となった女性の人生史に基づいた、市内の過去の写真やコーラスグループ団体の練習風景動画などを見せ、ケアサービスを提供しました。

その結果、対象者とその家族にはケア中に有意義な時間を過ごして頂くことができ、練習風景動画の撮影許可を頂いた団体の方には、認知症への理解を深めて頂くことが出来ました。ご家族からは、また機会があればこのような取り組みへ参加したいとのコメントも頂いています。



本実証実験の成果と意義

地域包括ケアの理念の下、地域の資産（ヒト、モノ）を認知症ケアに有効活用できる可能性を確認出来ました。さらに今回の取り組みは、認知症はその家族だけの問題ではなく、地域で支え合うものであり、些細なことでも一人ひとりが貢献し得るものであるという、認知症ケアへの参加意識の醸成に繋がるものと考えられます。

今後の展望

今回の取り組みを足掛かりに、他の地方自治体とも連携を深めていきます。また対象者を拡大して、更に多くの方々に今回のようなケアサービスを周知することにより認知症対策の一助となるよう、取り組んでいきたいと考えています。